

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

平成26年 6月 3日

兵庫県知事 殿

提出者

住 所 高砂市荒井町千鳥1丁目1番1号

氏 名 高砂市

市長 登 幸人

電話番号 079-442-2101

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	高砂市 高砂浄化センター
事業場の所在地	高砂市高砂町東宮町1042-1
計画期間	平成26年4月1日から平成27年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	3631 水道業 下水道処理施設維持管理業
② 事業の規模	年間汚水処理水量 2,445,587 m <sup>3</sup> (平成25年度実績)
③ 従業員数	13人 (正職員5人・委託職員7人・嘱託職員1人) 平成26年4月時点
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙のとおり

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図)			
別紙のとおり			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（平成25年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	排出量	8,337 t	t
	(これまでに実施した取組)		
高砂浄化センターでは、消化ガスの有効利用（消化槽の加温等）により汚泥の消化を促進して、発生汚泥の削減に努めている。			
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	排出量	8,000 t	t
	(今後実施する予定の取組)		
前年度と同様。			
産業廃棄物の分別に関する事項			
① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)		
	特になし		
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)		
	特になし		

## (第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（ 25 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) 特になし		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) 特になし		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（ 25 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	7,923 t	t
	(これまでに実施した取組) 発生した下水汚泥に濃縮→消化→脱水処理を行っている なお、脱水処理後の含水率は80.9% (H25年度実績) である。		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	7,600 t	t
	(今後実施する予定の取組) 脱水効率の向上等による中間処理残さ量の減量化を推進する。		

## (第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（ 25 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) 特になし		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) 特になし		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（ 25 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	全処理委託量	414 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	0 t	t
	再生利用業者への処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) 場外中間処理を行っている高砂市美化センターにおいて焼却溶融処理後、溶融スラグとして一部建設資材に再利用している。		

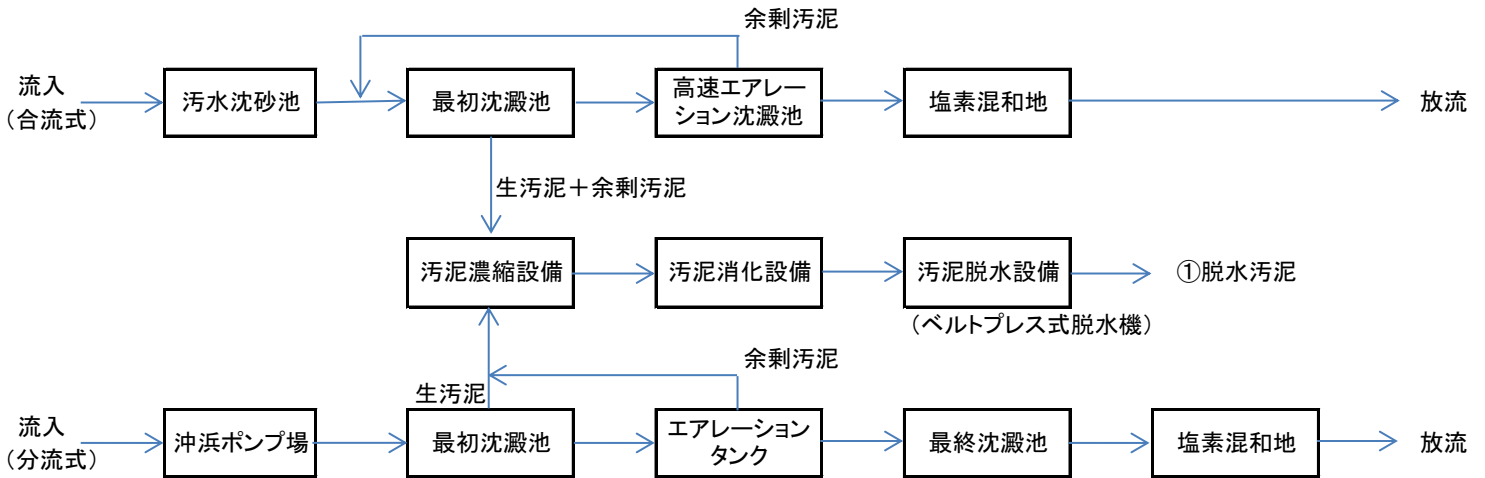
② 計画	<b>【目標】</b>		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	全処理委託量	400 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0 t	t
	再生利用業者への 処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>引き続き高砂市美化センターにおいて、焼却溶融処理及び、建築資材としてのリサイクルを推進する。</p>		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

当該事業所において現に行っている事業に関する事項

○ 産業廃棄物の一連の処理工程



① 脱水汚泥

収集運搬(浄化センター職員) → 焼却熔融処理(高砂市美化センター) → 建設資材として再利用

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(1) 責任者及び管理体制

統括責任者		高砂浄化センター所長
廃棄物管理担当者		高砂浄化センター所長
役割	統括責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 廃棄物処理に関する検討 廃棄物の発生抑制、再生利用、中間処理、適正処理の推進、計画的な廃棄物の管理運営を行う上で必要な事項を検討する。</li> <li>○ 廃棄物処理方針の策定</li> <li>○ 廃棄物処理に関する各種事項の決定、承認</li> <li>○ 廃棄物管理状況の把握と改善策の検討</li> <li>○ 産業廃棄物処理施設の運転・維持管理状況の把握</li> </ul>
	廃棄物管理担当者	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 廃棄物処理計画の作成</li> <li>○ 処理業者、再生利用業者の調査、選定及び管理</li> <li>○ 委託契約の締結</li> <li>○ 産業廃棄物管理票の交付・管理</li> <li>○ 監督官庁への各種報告</li> <li>○ その他関係する事項</li> </ul>

(2) 教育・研修

発生する廃棄物の種類、発生状況、処理方法、処理に関する留意事項を整理し、職員等に定期的に教育・研修等を行う。